



Title	2013年度 意匠学会賞選考結果報告
Author(s)	横川, 公子
Citation	デザイン理論. 2014, 64, p. 1-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56409
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2013年度 意匠学会賞選考結果報告

学会賞選考委員会

委員長 横川 公子

学会賞選考の経緯

2012年度学会賞応募を締め切った2013年6月末の段階で、1件の応募があった。学会賞選考委員会は、学会規定に従って、独自に候補者を推薦し、さらに過去5年間の「デザイン理論」誌上の書評欄・著書紹介に掲載された著作・業績をリストアップし、それらを含めて比較検討することにした。その結果、2件の候補の推薦があった。そのため「デザイン理論」掲載の著作リストを取り上げることなく、合計3件について、それぞれ推薦理由を附して学会賞候補者とし、選考委員会で検討することとした。

各選考委員が、3件について1～3位の順位付けを行い、その評価を集計した結果、講評で第一義とされた「該当なし」を含めて評価に採用した場合、1位-2件と3位-1件となった。その点差は3点である。さらに、「該当なし」とせずに評価を付けるとした場合、上記2件の一位候補者が、1点差で1、2位に対応し、3位との点差は、2位に対して5点、1位に対して6点と広がった。

1位-2件、あるいは1、2位の僅差の結果をもって、学会賞の結果を決定するには、無理があると思われた。さらに3人の選考委員より、僅差による決定について再選考の余地があるとする意見が提案された。この点に鑑み、上位二人について改めて最終選考を講評とともに依頼した。しかしながら、決定的な評価の差は得られなかった。

そこで、上位2者の学会賞の対象となった業績及び過去に遡っての両者の業績の蓄積、選考委員による講評を改めて整理し、選考委員会を招集し協議した。その結果、両者はともに意匠学会員ではないが、規定に照らして、意匠学研究の一般への普及に功績があるという点で意見の一致した当該受賞者を絞り込むことができた。

なお学会賞については、年来、候補者を提案することができていないため、今回は3人の候補者があったことに鑑み、受賞者の提案に結び付けたことを付記しておきたい。

受賞者 柏木 博

業績 『探偵小説の室内』（白水社、2012.1）の著作

履歴 1946年7月6日生、兵庫県神戸市出身のデザイン評論家、武蔵野美術大学教授。

1970年武蔵野美術大学産業デザイン学科卒。卒業後、自宅アパートでデザイン論・

デザイン史を研究し始める。編集者などを経て、1983年東京造形大学助教授。デザイン評論家として活動。1994年勝見勝賞受賞。文化庁芸術選奨選考委員となる。1996年武蔵野美術大学（近代デザイン史）教授。その他、企業や展示の監修も務める。2000年文化庁メディア芸術祭審査委員。企業デザインアドバイザー。

- 著書
- 1979年 近代日本の産業デザイン思想, 晶文社
 - 1981年 おもちゃの神話 近代玩具の諸相, 毎日選書
 - 1984年 日用品のデザイン思想, 晶文社
 - 1985年 道具の政治学, 冬樹社
 - 1986年 欲望の図像学, 未来社
 - 1987年 デザイン戦略, 講談社現代新書
 - 1987年 肖像のなかの権力 ― 近代日本のグラフィズムを読む ―, 平凡社（のち講談社学術文庫）
 - 1988年 日常図鑑 批評のクロノロジー, 未来社
 - 1988年 ミクロユートピアの家族, 筑摩書房
 - 1988年 カプセル化時代のデザイン, 晶文社
 - 1988年 電子デザインの詩学 ― テクノロジーと世紀末都市 ―, PARCO 出版局
 - 1989年 道具とメディアの政治学, 未来社
 - 1992年 デザイン都市 ― デザイン・クロニクル 1987-1992 ―, INAX 叢書
 - 1992年 デザインの20世紀, 日本放送出版協会 NHKブックス
 - 1993年 ユートピアの夢 20世紀の未来像, 未来社
 - 1995年 家事の政治学, 青土社
 - 1995年 世紀末の未来都市 ― 変わりゆく空間とデザイン ―, ジャストシステム
 - 1996年 芸術の複製技術時代 ― 日常のデザイン ― 岩波近代日本の美術9, 岩波書店
 - 1998年 20世紀をつくった日用品 ― ゼム・クリップからプレハブまで ―, 晶文社
 - 1998年 ファッションの20世紀 ― 都市・消費・性 ―, NHKブックス
 - 1999年 日用品の文化誌, 岩波新書
 - 2000年 色彩のヒント, 平凡社新書
 - 2002年 家具のモダンデザイン, 淡交社
 - 2002年 モダンデザイン批判, 岩波書店
 - 2002年 20世紀はどのようにデザインされたか, 晶文社
 - 2004年 「しきり」の文化論, 講談社現代新書

推薦理由

柏木博氏は、長年にわたり、デザイン研究に従事し、デザイン史、デザイン論に関する著作を数多く発表し、デザイン教育及び一般大衆に対するデザイン啓蒙活動に寄与し、社会におけるデザインの意義を伝え続けてきました。その功績は多大であり、学会の枠を超えて、意匠学会として顕彰するにふさわしい人物だと判断いたします。

最新作『探偵小説の室内』（2011, 平成23年度）は、15の探偵小説に描かれた「室内」を分析する事で、近代デザインの成立後、デザインの一分野として確立されてきた、所謂、「インテリア・デザイン」の問題を、そこに住まう人間の内面や精神を映し出す装置、逆にそこに住まう人間の感性や思考を規定するメディアとして、問題提起した意欲作であります。「インテリア・デザイン」を、単なる機能やスタイリングの問題ではなく、〈人が住まう事の意味〉、〈住まう人間の心〉の問題として読み取る視点は画期的であり、デザイン論に新たな視座を提起した意義は大きいと考えます。

また、探偵小説に描かれた室内を丹念に分析しながら、ベンヤミン、ベルクソン、フロイトなどの批評、哲学、精神分析学を参照しつつ、ヴィクトリア朝から現代のネットカフェの「室内」といった電脳空間をも分析し、文学作品から出発しつつ、脱領域的に、近代から現代に至るまでの、人間にとっての「インテリア・デザイン（室内）」の意味を社会問題にも言及しつつ論じた、該博かつ豊かな感性（デザイン・マインド）に溢れる貴重な研究成果であると考えます。